

在校生の演奏で校歌を合唱する卒業生たち—いずれも名古屋市熱田区の熱田高で



県内版

中日新聞 朝刊

熱田高の入学1期生 母校へ

戦争や復興の歴史語る

戦後70年

名古屋市熱田区の熱田高校を十七日、戦後間もなく入学の1期生らが訪れた。同校は、かつて戦闘機などを生産し熱田空襲で標的となった愛知時計電機

の跡地に開校。1期生らは戦争や戦後復興をあらためて振り返った。

創立は一九五三(昭和二十八)年、愛知の県立高では戦後最初だった。同窓会(佐々木元彦会長)が戦後七十

の跡地に開校。1期生ら「ホームカミングデー」として初めて現役生との交流を企画した。

卒業生百五十人と夏休み中の生徒百人が体育館に参集。1期生の山田稔さん(セシ)同市中区は皆を前に、当時の運動場のありさま



歴代の卒業アルバムを見て、思い出にひたる卒業生たち

を回顧。コンクリートのがれきの上に薄く土しになるがれきを取りをかぶせてあり、雨の除いた。「自分たちで

学校をつくっていく思いだった」という。また女学校から愛知時計電機に学徒動員されていた粕谷椒子さん(セ)北区は空襲の惨状を「橋のたもとに死体が浮かんでいた。ぼうぜんとするしかなかった」と話した。

言論の自由の重みにも触れ、「自分で考え、発言することを忘れないで」と呼び掛けた。

三年の山下涼子さん(セ)熱田区は「戦争の歴史の上に築かれた伝統を受け継いでいけたら」と話した。

(立石智保)